

ゆらぎによる径電場遷移の理論研究

- 大半径方向に対称性を持たないトーラス型の核融合装置では、理論上、小半径方向に沿った電場（径電場）が外向きの状態と内向きの状態の両方が実現可能になる場合がある。
- このとき、径電場のダイナミクスは、二つの底を持つあるポテンシャル中の粒子の運動と同じように扱える。
- それぞれの底が、内向き電場と外向き電場に対応し、間にあるポテンシャルの障壁の高さと曲率が、状態間の遷移確率を決める。
- 本課題では、ゆらぎの影響によるこの遷移のダイナミクスの詳細を探る。

